

## 塘研究室現地調査報告

今年度、私たちの研究室では、長瀬川下流域の底生動物相調査を4年生の横山拓未君の卒業研究として実施します。長瀬川の底生動物相調査は、修了生の武田悠太君が酸川との合流部付近で、同じく修了生の難波元生君が裏磐梯地域の蛇平橋付近で、昨年度特任助教であった大平 創君が裏磐梯地域の小野川橋付近ほかでそれぞれ実施し、データも公表していますが、酸川との合流部付近よりも下流域、猪苗代湖への流入部までの間での調査は未実施でした。3月23日に調査地点の選定を兼ねた予備調査を実施しました。

長瀬川と酸性河川である酸川の最初の合流部までの間で2ヶ所、酸川との最初の合流部よりも下流域の酸川で2ヶ所、長瀬川と酸川の最後の合流部よりも下流域の長瀬川で3ヶ所の計7ヶ所で調査を実施しました。長瀬川と酸川の最初の合流部のすぐ上流側ではウチダザリガニの死骸が見つかりました。酸川の岸边付近には有翅のクロカワゲラ属の成虫が多数見られました。長瀬川と酸川の最後の合流部よりも下流域の長瀬川では、ユビオナシカワゲラ属（コオノオナシカワゲラ？）、クロカワゲラ属（フクシマクロカワゲラ？）、タイリククロスジヘビトンボ、センブリ属の幼虫しか採集されませんでした。猪苗代大橋付近では岸边付近に残雪があり、その融雪水の影響は、pHが中性を示しました。

気温 1-2℃の寒さと、時折雪が舞う中での調査は大変でしたが、調査場所のいくつかは確定できたので、残り数ヶ所の調査地確定に向けてさらに準備を進める予定です。



長瀬川と酸川の最初の合流部よりも上流側の長瀬川での調査



長瀬川と酸川の最初の合流部よりも下流側の酸川での調査



長瀬川と酸川の最後の合流部よりも下流側の長瀬川での調査